

しまね国際センター機関誌

まいるすとんず

M I L E S T O N E S

2021 March

78

特集

外国につながる皆さんに聞いてみました！ コロナ禍での暮らし

SICTピックス

おうちで世界を感じるぬり絵コンテスト
外国人住民から信頼される相談窓口を目指して
JICA草の根技術協力事業〈第2次プロジェクト〉
SIC外国人留学生奨学金交付事業

SICレポート

令和2年度国際化功労者顕彰



しまねと世界をもっと近くに。





特集



外国につながる皆さんに聞いてみました! コロナ禍での暮らし

新型コロナウイルスの感染拡大により、この1年で生活が一変しました。外国との往来が制限され帰国したくてもできなかつたり、経済の悪化で仕事が減つたりするなど、外国人住民も影響を受けています。

今回の特集では、島根県の外国人住民にインタビューを行い、コロナ禍での生活や国の家族の様子を伺いました。また、日本語スピーチコンテストで発表された外国人住民の普段感じている思いをご紹介します。みなさんのお近くにはどのような外国人住民が住んでいますか？知ることから多文化共生を始めてみませんか。

外国人住民インタビュー



グエン マン タイ さん  松江市

ベトナム・ハノイ市出身。2019年10月に来日し、専門学校で日本語の勉強をしています。

収入減

新型コロナで気を付けているのは、必要ないときは島根から出ないことです。あと人がいっぱい集まるパーティーやイベントに参加しないことです。楽しいことですが、我慢しています。島根は遊ぶところがなくて最初はあーっと思いましたが、新型コロナの状況では都会ほど心配ではありません。

アルバイトの時間が減って収入が減りました。でも小さい企業がなくなってしまう、飲食店は閉めていて、居酒屋ではお客さんが来ないなど、自分だけでなくどこでも大変です。

ベトナムの家族に会いたい

ベトナムでもイギリスの変異ウイルスが出てきたので心配です。来週は旧正月です(SIC注・2021年2月12日~14日)。毎年、花火やフェスティバルがありますが、今年はなくなりました。

両親とはFacebookで週に2~3回連絡をしています。元気で安心しています。会いに帰りたいますが、今は日本からベトナムの飛行機は飛んでいないので、ベトナムに帰れません。



やまもと
山本 ミリアン さん  出雲市

ブラジル・サンパウロ市出身で来日して15年。1年半前に自分の会社を立ち上げて仕事をしています。

旅行は控える

必要な外出しなくなりしました。買い物や外でできる運動ぐらいです。

以前は地域のイベントにも参加していましたが、新型コロナで人が集まる場所には参加しなくなりました。国籍にかかわらず家で集まって楽しんでいる人はいるけど、私はできるだけ控えています。県外にも行かないように気を付けています。以前は仕事の関係もあって年に11回くらい旅行していたので、大きな変化です。まだまだ旅行していないところがたくさんあるので、旅行したいです。

仕事の収入は、新型コロナで少なくなりました。ただ、仕事の量は増えました。新型コロナで国の規制が変わるのでいつも情報収集をしておかないといけません。しかし、情報収集の時間は、収入にはつながりません。

家族とはオンラインで

ブラジルも新型コロナで大変です。ブラジルには姉が2人いますが、元気なので安心です。私自身ブラジルに頻りに帰ることはないので、ブラジルとの行き来に不便を感じることはありません。家族とはオンラインで話しているので、あまりブラジルに帰りたいたとは思いません。



ふじい さとる
藤井 悟 さん  出雲市

ブラジル・サンパウロ州スザノ市出身で、日系3世。生まれてすぐ日本に来てから5歳まで過ごし、ブラジルに帰国。2017年に再来日。保険関係の仕事をしています。

県外の人と会うときは気を付ける

パーベキューはやらなくなりました。県外に行くこともほとんどありません。前は友達に誘われて遊びに行っていました。マスクは慣れました。

仕事上、いろいろな人と会わないといけないので、県外の人と会うときは少し不安で気を付けていま

す。仕事への影響は1か月程度で、今はほとんどありません。

両親を呼び寄せたい

両親はスザノ市にいて、元気です。ブラジルでは、マスクをつける習慣がないので不安でした。今ではブラジルでもマスクをつける人が多いです。

以前は気にしていませんでしたが、このような状況で両親の健康が心配になるようになりました。

両親とは毎週スカイプで話しているので、ブラジルに帰りたいということはないですが、できれば両親を日本に呼び寄せたいです。

ます だ

増田 エリザベス さん  浜田市

フィリピン・ダグパン市生まれ、マニラ育ち。来日後日本人のご主人と結婚して21年。

子どもたちは休校

一時期は、マスク作りや子どものことで忙しくしていました。お義母さんの世話や家のことを中心にしていた、外出も控えていました。子どもたちは休校になったので、一緒に家でフィリピンのニュースを見たりもしていました。

フィリピンの家族が心配

家族は大丈夫ですが、フィリピンはロックダウンしているので大変です。私の弟は救急車の運転をしているので、今はコロナ患者も多くてとても大変です。病院がいっぱいで、別の病院に運んだり…休みもありません。弟は週に1回PCR検査を受けていて、元気にしています。私の兄は警察官で、ロックダウン中の見回りもしています。他にも病院の検査技師と役所の職員、あとはレスキュー隊員の兄弟がいます。日本にいる自分は大丈夫だけど、フィリピンの家族が心配です。帰りたいけど帰れなくて、悔しい。ロックダウンで、年配の親は外出もできません。子どもや年寄りも外出が禁止されていて、若い人でもマスクやフェイスシールドがないと捕まります。銀行や買い物に行くのも毎回行列に並ばなくてはならなくて大変だし、量や人数に制限もあるので不便だと聞きました。去年の台風の影響で野菜も高くなり、簡単なものばかり作って食べていると兄の奥さんが言っていました。また、私の兄弟は大丈夫でしたが、仕事がなくなった人も多くいます。食べ物もなく、補助金(アユダ)もない人などいることを考えると、とてもつらいです。



こうひょう

杭 彪 さん  浜田市

中国・河南省出身。リハビリテーションの専門学校で理学療法士を目指して勉強しています。

実習が短縮

学校の授業は、一時期オンラインに切り替わりましたが、今はすべて対面で行われています。4年生だったのでそれほどオンライン授業は多くなかったのですが、2、3年生は結構多く受けていたと思います。

一番の影響は、実習があまりできなかったことです。通常なら半年あるはずの実習が2か月に短縮されました。受け入れ先で指導してくださった先生はとても優しくったのですが、患者と接しながら治療について考えると、自分の知識不足を痛感しました。期間が短かったこともあり、理解できないことや難しいことも多かったです。4月から就職が決まっていますが、実習も少なかったので経験が不足していて…やっぱり心配や不安も大きいです。東京の病院に就職するため、こちらとは状況も違うし不安もありますが、日本でもワクチン接種が始まれば状況は変わると思いますし、大丈夫です。

電話で状況確認

中国の家族は大丈夫です。河南省はそんなに大変な影響はなかったです。外出できなかったときもありましたが、家族とは毎日電話していたので状況も分かり、安心していました。最近は1週間に1回、週末に電話しています。電話では家族全員と話しますよ。「今週はどうだった?」とか、お姉さんと子どもの話をしたりとか。姉には10歳、3歳の子どもがいますが、3歳の子にはまだ会っていません。

☆このインタビューは2021年1月~2月に主にオンラインにより実施しました。

当センターは、「コラム~外国につながる人たち~」と題して、ホームページで島根県の外国人住民の方をご紹介します。この紙面上は、コロナ禍に関する話題を掲載しております。インタビュー全体的内容は、ホームページをご覧ください。

ホームページ <https://www.sic-info.org/column/>



アジアフェスタ@ごうつ2020 日本語スピーチコンテスト

2020年11月8日にパレットごうつで開催された「アジアフェスタ@ごうつ2020」で、日本語スピーチコンテストが行われました。スピーチコンテストでは、参加者がそれぞれ思いを込めて日本語で話しました。

ここでは、入賞者3名のスピーチをご紹介します。

最優秀賞 **グエン・ツイ・リン** さん 江津市

「ワンハートに参加したいですか？」

大きな体の日本人が、私に言いました。3年前の夏まつりに行った時のことでした。

日本に来たのは、冬でした。寒くて、暗くて、とてもいやでした。日本語もわからず、仕事を教えてもらっても、言葉がわかりません。意味がわからないくせにわかったふりをして、なんども仕事をまちがえました。買い物に行って、油とお酢をまちがえて買ったこともありました。だから、どこにも出かけず、仕事ばかり…つらくて、さみしくて、かなしくて…「ベトナムに帰りたい」と思いました。

そんな時、近所で夏まつりがありました。行って見て、びっくりしました。ベトナム人がやっているお店があったんです。みんな笑顔で、とても楽しそうでした。それはベトナム人と日本人がいっしょに日本語を勉強したり、いろいろな活動をしている「ごうつワンハート」というグループでした。「私も、いっしょに笑いたい！」と思いました。そうしたら、そこにいた、体の大きな日本人が私のところに来て言いました。「みんなといっしょに日本語を勉強したいですか？ワンハートに参加したいですか？」「自分のチャンスだ」と思って、「はい！やりたいです！」と答えました。

それからは、私の生活はとって変わりました。毎週日曜日に、みんなと一緒に日本語の勉強をして、お花見、浴衣、いちごがり、バーベキュー…私の日曜日は、とても忙しくて、楽しくなりました。特に楽しかったのは、日本人といっしょにベトナム料理を作って食べる交流会です。ベトナム料理を食べて「おいしい！」って、言ってくれたからです。料理でベトナムのことが大好きになってもらえたから、私の心はウキウキ、うれしくなりました。

ワンハートとの出会いのおかげで、日本人と話ができるようになりました。

日本に来ているみなさん、困っていることがたくさんあると思います。でも、自分のため、家族のため、将来のため、あきらめずに頑張ってください。わたしがワンハートと出会ったように、皆さんもすてきな出会いが、きっとあると思います。

ご清聴、ありがとうございました。



準優勝(ベストスマイル賞) **レ・ティ・カム** さん 江津市

私はカムともうします。去年の6月に、日本に来ました。

最初、日本に来た時、一人暮らしはさみしかったです。家族とはなれて、友達もいないし、日本語もまだ話せなかったんです。だから、毎日仕事だけをして、帰って誰にも話せませんでした。ほんとにベトナムに帰りたいと思いました。

しかし、ある日、ワンハートを紹介してもらいました。それ以来、生活が変わりました。ワンハートでは親切で熱心な日本人が日本語を教えてくれて、生活のことも手伝ってくれました。

日本のお祭りに参加できて、浴衣を着て、花火を見て、色々な体験をしました。さらに、日本人とも交流して、友達が出来たので嬉しかったです。

でも、最近困ることも起こりました。群馬県に住んでいるベトナム人が、悪いことをしました。ブタや、ニワトリや、くだものを、たくさん盗みました。同じベトナム人として、とてもはずかしいことです。このニュースを聞いた日本人は言います。「ベトナム人は悪いことする。ベトナム人はなにをするか分からん。ベトナム人はこわい。」私は、とてもやさしいです。かなしいです。でも、私たちは悪いことをしに日本に来たんじゃありません。毎日、仕事を頑張って、日本語も勉強して、いいことをしたいです。ブタ肉やくだものは、キヌヤとかゆめタウンで買っています。

いま、日本にはベトナム人が約41万人住んでいます。だから悪い人もいるかもしれないけど、みんなは一生懸命頑張っています。日本人のみなさん、私たちは日本人と友達になりたいです。日本人と一緒に楽しく暮らしたいです。

以上です。ご清聴どうもありがとうございました。

(SIC注)ワンハート：江津市の日本語ボランティアグループ「日本語交流クラブGOTO☆ワンハート」

「アジアフェスタ@ごうつ2020」は、しまね国際センター世界とつながる島根づくり助成金の交付事業です。

スクスク賞 レ・ティ・フォン さん 浜田市



レ・ティ・フォンと申します。今から私のスピーチを発表させていただきます。どうぞ聞いてください。
 ここにいる外国人に聞きたいことがあります。日本に来て自分が日本から学んだと感じることはなんでしょうか。人によって答えがそれぞれ違うと思います。私も色々なことを学びました。私は日本に来る前は勉強の面で得意な科目も無かったし、勉強以外にも歌が上手だとか、楽器が出来るような特技もありませんでした。このままだったら、私、もしかしたらつまらない人生をずっと送ってしまうかもしれません。そう思って、人見知りで臆病な性格を変えて、色々な事にチャレンジしてみたいと考え、ついに日本に来る事を決めました。

もうすぐ3年経つ今、まるで新しい人に生まれ変わったような気がします。海外で生活していて、一番みんなが恐れる事は家族と離れる事でしょう。私もそうでした！自分のすぐ側に家族がいないので、ひとりで全部やらなければなりません。日本に来る前は恥ずかしながら家の掃除、料理、洗濯までも、全て母がやってくれました！でも実習生として日本に来てからは、毎朝早く起きて朝ご飯を作ってくれる人、そして寝坊した時に「フォン 今何時だと思ってんの？早く起きなさい。」と言ってくれる人は誰もいません。特にホームシックになったり、日本語が通じず悩んだり、仕事が大変だったりする時もありますが、家族や将来の事を考えれば自分も頑張らなきゃっていう気持ちになります。私は日本にきて初めて家族の大切さを実感しました。日本にきて一番学んだことは文化や習慣ばかりではなくて「自立」でした。

ご清聴ありがとうございました。



スピーチコンテストの出場者

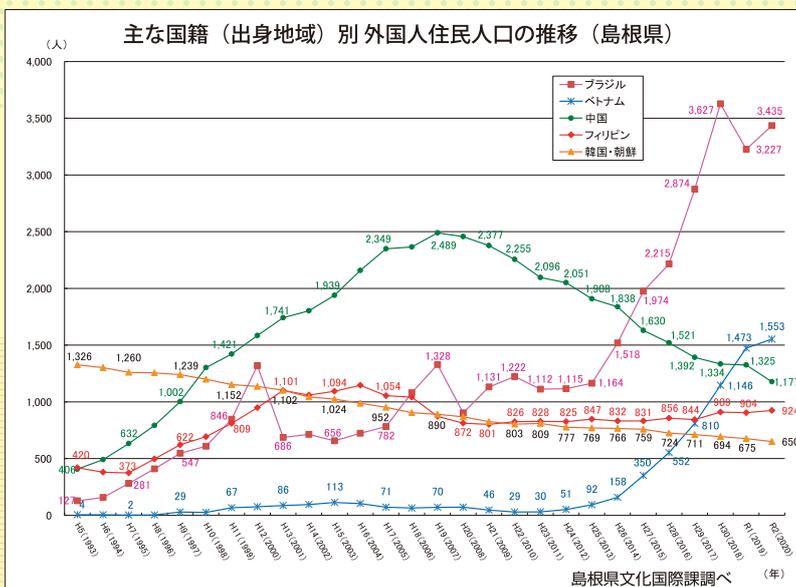
島根県の外国人住民の状況

2020年12月末現在、島根県には、8,917人の外国人住民が暮らし、県民人口の約1.3%を占めています。5年前の6,280人と比較すると約1.4倍に増加していますが、ここ数年は横ばいの人数となっています。これは県内企業の雇用状況や、新型コロナウイルス感染症による出入国制限などが影響しているものと考えられます。

出身地別に見ると、最も多いのはブラジルの3,435人で、外国人住民全体の約39%を占めています。ついでベトナム1,553人、中国1,177人、フィリピン924人の順です。ブラジル、ベトナムの増加が目立つ一方、中国の減少が大きくなっています。アジア地域の出身者が約58%を占める一方で、全体では約70の国・地域の外国人住民が暮らしています。

市町村別に見ると、外国人住民数が最も多いのは出雲市4,600人、ついで松江市1,521人、浜田市653人です。外国人住民の割合が最も大きいのは吉賀町約3.4%、ついで出雲市約2.7%です。

滞在目的別に見ると、「永住者」や「定住者」など、日本に長期滞在が可能な在留資格を持つ外国人住民が7割近くを占めている状況が続いています。



SIC トピックス



おうちで世界を感じるぬり絵コンテスト

しまね国際センターと島根県JICAデスクは2020年4月24日から5月25日まで世界各地をイメージした6つのイラストを用意し、「おうちで世界を感じるぬり絵コンテスト」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症のためにステイホームが呼びかけられているなか、おうちで少しでも楽しく過ごしていただくために企画しました。

県内からも県外からも、日本の方からも外国の方からも、多くの作品をご応募いただきました。受賞作品の一部をご紹介します。

イラスト協力 たかはし ちかえ さん



安来市出身。個展の開催、書籍の挿絵など、イラストレーターとして活躍中。また、JICA海外協力隊として、アフリカ・ニジェールに短期派遣され、バレーボールを指導した経験もある。松江市にあるスリランカカレーショップ「印度垂」で働き始めたことをきっかけに、スリランカを定期的に訪れ、料理を学んだり、スリランカの国技であるバレーボールの指導を行ったりもしている。



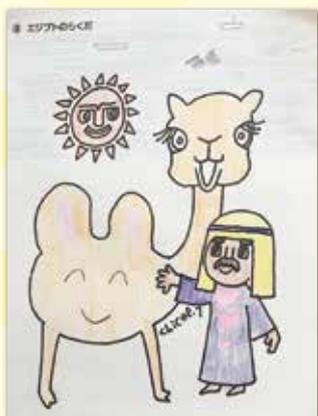
たかはしちかえ 最優秀賞

お名前：かずよさん
ご住所：兵庫県
出身の国/地域：日本

カラフルで丁寧に塗られていることに加えて、マスクの装飾や服の柄など細かいところまでたくさん描き加えられていて、インドネシアの雰囲気がかみ出ています。アイデア満載の楽しい作品です！

他の受賞作品は
こちらをご覧ください

<https://sic-info.org/coloringpicture/winningworks/>



たかはしちかえ 優秀賞

お名前：木村さん
ご住所：島根県
出身の国/地域：日本

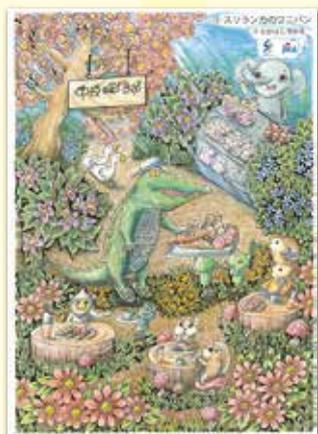
ラクダにうさぎの顔が描かれていておもしろいです。こぶがうさぎの耳になっています。自由な発想がいいですね。



たかはしちかえ 優秀賞

お名前：木村凜さん
ご住所：島根県
出身の国/地域：日本

カラフルな色使いがすごいです。ギターやサボテンも描かれていますね。オオカミのダジャレが利いています。



たかはしちかえ 優秀賞

お名前：渡辺和徳さん
ご住所：広島県
出身の国/地域：日本

薄暗い中に日差しが差し込んでいて、スリランカのいなかの雰囲気満載です。



たかはしちかえ 優秀賞

お名前：松田ちひろさん
ご住所：大阪府
出身の国/地域：日本

ネコや人が描かれていて、いろいろなストーリーが読み取れます。おもしろくて、笑ってしまいました。

外国人住民から信頼される相談窓口を目指して

「しまね多文化共生総合相談ワンストップセンター」(以下、「ワンストップセンター」)は、当センター自主事業として従来から実施してきた外国語相談業務を拡充する形で、2019年6月1日に開設されました。(右図参照)

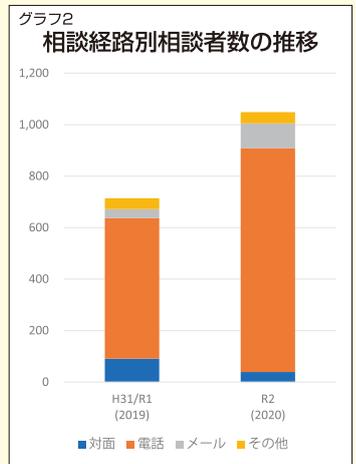
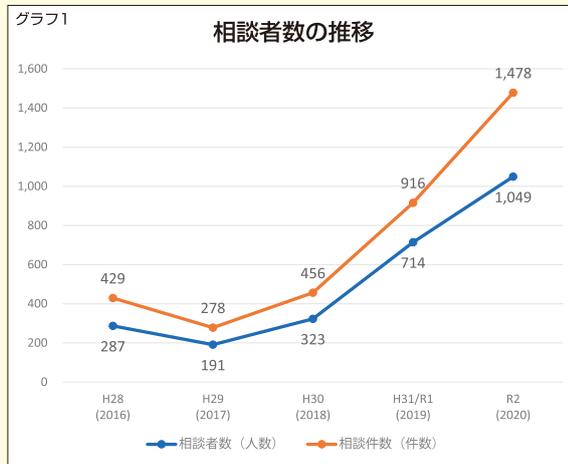
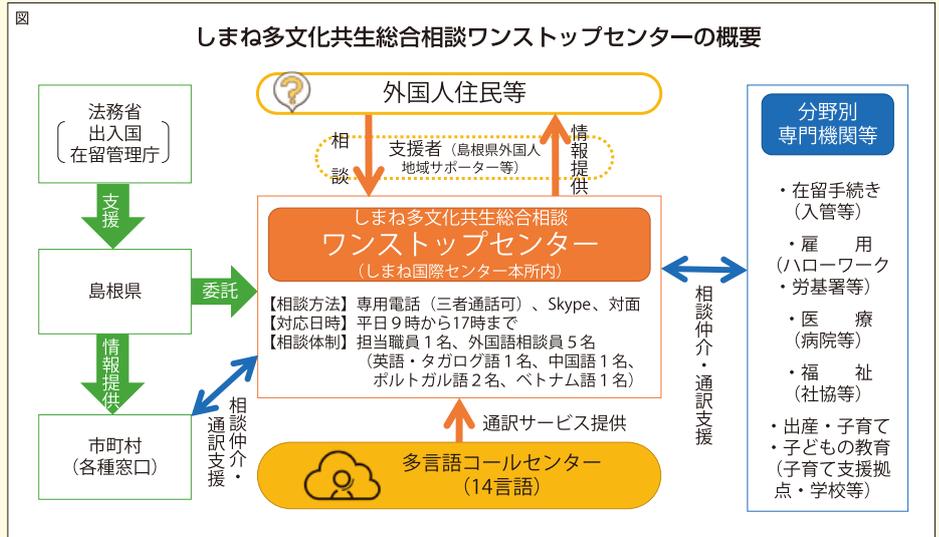
ワンストップセンター開設後、相談者数は急増しています。今年度は対面相談が難しかった一方で、電話などによる相談者数は大きく伸びています。(グラフ1・2参照)

新型コロナ関連の相談としては、給付金申請に関すること、PCR検査のこと、コロナ禍の長期化による帰国困難者からの在留資格の相談などが寄せられています。

ワンストップセンターの主な業務は、外国人相談者からの問題や悩みを聞いて、必要な情報を提供したり、適切な専門機関につなげたりすることです。基本的には、外国語相談員と日本人の担当職員のパアで対応します。

ここで外国語相談員が果たす役割は非常に重要です。相談者の緊張を和らげ、寄り添って、思いを引き出します。単なる通訳ではありません。日本人の担当職員が気づきにくい日本社会の側の問題点等に気づかせてくれるのも、双方の文化や社会をよく知る相談員の視点によるものです。ペアを組む日本人の担当職員には、外国語相談員が外国人コミュニティ内の一員でもありつつ、センター職員としての立場も保たなければならないという難しい立場にあることを理解した上での配慮が求められます。

ワンストップセンターの役割は、今後ますます大切なものになっていくと思います。これからも相談業務に関わるスタッフの専門性を高め、外国人住民や地域、専門機関などからも信頼される相談窓口を目指していきたいと思います。



JICA草の根技術協力事業(第2次プロジェクト)

サンパウロ州カサパーバ市における環境教育推進事業

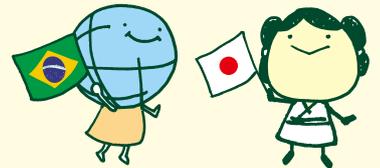
1年前のまいるすとんず第77号で、「…残すところ半年足らずとなりました」と報告しましたが、2021年6月まで静かに継続中です。

2020年5月に、現地で環境教育啓発イベントを開催してプロジェクトを締めくくる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、イベントも専門家派遣もできない状況となりました。JICA中国センターと協議の上、収束を期待し契約を12か月延長することができました。

これまで月に1~2回のオンライン会議でモニタリングを継続していますが、現地では感染が収まらず、市立小学校の子どもたちもプロジェクト関係者もほとんど在宅が続いている状況です。その中で、オンライン用の環境学習緊急カリキュラムが自主的に作成され、子どもたちが家族と一緒に活動した様子等の報告を受けました。登校できない期間においても、何とか環境学習を継続したいという現地関係者の熱意の表れであり、大変嬉しく思っています。

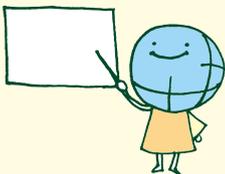
現地プロジェクトメンバーは、小規模でもイベント開催を希望しているところですが、いかにせん今後の状況次第となります。足掛け7年となる本プロジェクトの意義や目的を確認し、現地で末永く環境教育が継続されるようラストサポートです。

コロナ禍の中
がんばっています



ペットボトル菜園に挑戦

SIC トピックス



SIC外国人留学生奨学金交付事業

今年度は10名の奨学生を選考し、奨学金交付決定通知書授与式を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に会することなく分散して執り行いました。

また、11月から行った寄附金募集では、約226万円の多額の寄附がありました。コロナ禍が続く困窮する私費留学生の皆さんに対して、多くの方からご支援をいただいたことに、改めてお礼を申し上げます。



島根大学(出雲キャンパス)にて

留学生からのお礼のメッセージを、一部抜粋してご紹介します。

- ◆奨学金で経済的負担が軽くなり、研究に集中することができました。寄附をしてくださった皆様のご厚意に対して、感謝の気持ちを言い尽くせません。帰国後は、習得したすべての知識を医療に役立てたいと思っています。(バングラデシュ:島根大学・医学系研究科)
- ◆コロナ禍の影響を受け、困窮する私を支援していただきありがとうございました。奨学金により留学生生活を維持し、勉学に集中することが可能になりました。今後はより一層勉学に励み、社会に貢献できる人材になれるように努力していきます。(中国:島根大学・人文社会科学研究科)
- ◆コロナ禍の影響でアルバイトがあまりできなくなりましたが、奨学金で生活ができればアルバイトの時間も楽になり勉強に集中しました。皆様本当にありがとうございました。卒業後は日本で何年か自動車整備の仕事を経験し、ベトナムで自分の店を持ちたいと思っています。(ベトナム:山陰中央専門大学校・自動車総合学科)



SIC Report

エスアイシーレポート

令和2年度国際化功労者顕彰

国際交流や国際協力、多文化共生など、島根県の国際化に尽力され、その功績が特に顕著な個人・団体を顕彰することを目的に、平成10(1998)年度から国際化功労者顕彰を行っています。

令和2(2020)年度は、次の2団体1個人に表彰状が授与されました。

【表彰状】

☆NPO法人出雲フィンランド協会(理事長 ^{ながら とおる} 柳樂 徹)(出雲市)



柳樂理事長(右)と河上事務局長(左)

平成16(2004)年設立以来、出雲市民並びに会員とフィンランド共和国国民との交流を通じて相互理解を深め、友好・親善関係を推進することを目的に活動。出雲市-カラヨキ市相互派遣交流事業をこれまでに19回実施し、延べ300人以上の中高校生がこれに参加、未来を担う次世代の育成に貢献してきた。また、フィンランドの紹介や交流会を開催するなど、長年にわたり国際交流・国際理解の推進に貢献した。

☆大田日本語サークルこだま(代表 ^{ひらた せつこ} 平田 節子)(大田市)



平田代表(左)と日置様(右)

平成16(2004)年設立以来、大田市内に住む外国人を対象に日本語教室活動と、外国人同士のネットワーク作りや地域住民とのつながりを深める交流活動を継続的に行ってきた。また、日本での生活ルールの学習や外国人住民が抱える悩みに対して関係機関との調整役を担い、外国人住民が日本で安心して暮らしていけるような取り組みを行うなど、長年にわたり多文化共生の推進と国際交流に貢献した。

☆長瀬 恭次(出雲市)



長瀬様(左)と所属先の斐川町国際交流協会の持田会長(右)

昭和43(1968)年、斐川町国際交流協会の設立以来、副会長として、アメリカ・NYで書画展、ロシア・ウラジオストクで日本書道展、出雲市で外国人全国弁論大会など国際的な文化芸術交流事業を開催、タイへの交流訪問事業では、学用品や児童の作品を同国に贈るなどし、また地域でも国際交流年賀会、国際観月会等外国人と地域住民をつなぐイベントを主催し、長年にわたり国際交流・国際理解の推進に貢献した。

お知らせ

賛助会員、ボランティア登録者のみなさまへ

ご住所などで登録情報が変更になった場合には、当センターへご連絡ください

公式SNSアカウントで、多文化共生、国際交流、SICに関する情報を発信しています。ページや投稿のフォロー、いいね、シェアをよろしくをお願いします!

Facebook(フェイスブック)

アカウント名:しまね国際センター Shimane International Center
アカウントURL: <https://www.facebook.com/shimaneinternationalcenter/>



Instagram(インスタグラム)

名前:しまね国際センター
ユーザーネーム:shimane_international_center
アカウントURL: https://www.instagram.com/shimane_international_center/



(公財)しまね国際センター [しまね外国人支援センター・しまね国際研修館]

〒690-0011 島根県松江市東津田町369番地1
TEL: 0852-31-5056
FAX: 0852-31-5055
[ホームページ] <https://www.sic-info.org>
[E-mail] admin@sic-info.org



【西部支所】

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人 島根県立大学内
TEL: 0855-28-7990
FAX: 0855-28-7991
[E-mail] hamada@sic-info.org

★編集後記

コロナ禍でイベントは軒並み中止。研修はオンライン開催が多くなり、遠方からでも参加しやすくなるというメリットも。みんなが集まって盛り上がる交流イベントは、開催する側としても参加する側としても慎重になってしまいます。自由が早く戻ってほしいです。⑦

マイルストーン MILESTONES

Milestone(s) [マイルストーン(ズ)]とは道標、または画期的なできごとという意味があります。センターの設立、活動が島根県の国際化の歩みの中で意義深いものとなり、この機関誌が一つの道標としてお役に立てればと名付けられました。